

## 平成28年度事業報告

自 平成28年4月1日

至 平成29年3月31日

当財団は、健康の増進と体力の向上およびスポーツ科学に関する研究を助成し、併せてスポーツの振興・発展を目的とする団体に助成を行い、もって我が国の体育・スポーツに関する学術研究の振興と健全なスポーツ活動の発展に永続的に寄与するために、1979年（昭和54年）3月27日設立されたものであります。

また、2011年（平成23年）9月1日に公益財団法人の認定を受けました。

### 事業の内容

#### 1. 研究委託（1件 100万円）

理事会の諮問機関である学術委員会において慎重に討議した結果、下記の1件を「平成28年度 委託研究課題」として選定し、理事会の承認を得て、研究委託を行いました。

「実験と数値流体解析を統合したスポーツエアロダイナミクス解析システムの開発と展開研究」

筑波大学 浅井 武

#### 2. 自由課題研究（29件 総額1,600万円）

体育学、健康科学、人間工学、被服科学、運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術及びその他広くスポーツ振興に寄与する学術研究、障がい者スポーツの普及・発展を目的とし、障害者スポーツ医科学研究、及び関連する衣服・器具等の研究、調査に関する講座を持った大学、及びこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ、または幼児から高校生までの教育機関に奉職しており、前述した分野で研究または調査活動を積極的に行なっている個人またはグループに対して公募を致しました。

平成28年度は、全国から110の大学、その他の学校、研究機関より応募された156件の課題の中から、学術委員によりまして慎重かつ厳正な審査を行った結果、次の29件に決定し、理事会の承認を得て、下記の通り研究助成を行いました。

《最優秀入選（100万円、75万円）》

＜体力医学＞系

- ① 1型糖尿病における運動誘発性遅発低血糖の発生機序の解明～1型糖尿病患者の新規運動ガイドラインの作成に向けて～

神戸大学 佐藤 幸治

- ② 暑熱環境の違いが運動時のヒト脳認知機能に及ぼす影響

奈良女子大学 中田 大貴

<被服・工学>系

- ③ ポリエステル製スポーツウェアの臭いと消臭抗菌加工～酸導入ポリエステルが臭いおよび皮膚の pH に与える影響～

大妻女子大学 水谷千代美

<障がい者スポーツ>系

- ④ 先天性上肢形成不全・切断児の小学校体育学習指導要領に適した作業用義手の開発と海外義手パーツの評価検討および臨床応用

東京大学医学部附属病院 藤原 清香

《優秀入選（各50万円）》

- ⑤ 高濃度糖質溶液によるマウスリンスは持久性運動能力を向上させるか？

－認知機能および脳活動の観点から－

広島大学 長谷川 博

- ⑥ 低酸素環境下での骨格筋電気刺激が動脈スティフネスと糖代謝に及ぼす影響

－運動様刺激を用いたより簡単に効果が得られる健康増進方法の開発・提案－

大阪工業大学 西脇 雅人

- ⑦ 骨格筋におけるアディポネクチン・パラドクスはサルコペニア発症のキープレイヤーか？

豊橋創造大学 後藤 勝正

- ⑧ 運動負荷時の中心動脈圧波形の解析に基づく新しい血管内皮機能評価法の確立と評価基準の作成

和歌山県立医科大学 宮井 信行

- ⑨ 暑熱下持続的運動時における呼吸循環応答に及ぼす睡眠不足の影響

県立広島大学 辻 文

- ⑩ 短時間の温熱刺激が骨格筋糖輸送活性促進に及ぼすメカニズムの解明

京都大学 後藤亜由美

- ⑪ 中高齢者における運動の糖代謝改善作用を促す発酵乳バイオジェニックスの検討

京都府立大学 青井 涉

- ⑫ レジスタンストレーニングが骨格筋ミトコンドリアに及ぼす影響

東京大学 北岡 祐

- ⑬ 筋電計を用いて測定する下肢の筋活動から見た健康増進のための効果的な運動法の検討  
国立長寿医療研究センター 松井 康素
- ⑭ 加齢に伴う温度感覚の減弱は全身持久力の向上で改善できるか？  
大阪市立大学 岡崎 和伸
- ⑮ 月経周期のフェーズを利用したウェイトコントロールプログラムの開発  
日本体育大学 須永美歌子
- ⑯ 若年成人 30 名を対象に、高炭酸ガス吸入による血管拡張刺激に対する脳血管の拡張反応が、四肢の血管の硬度や最大酸素摂取量を指標とした体力とどのような関係にあるかを検証する  
北翔大学 井出幸二郎
- ⑰ 高強度運動時に認知機能の低下が起こるのはなぜかー脳血流と脳酸素動態からの検証  
福岡大学 小見山高明
- ⑱ 高齢者における性ステロイドホルモン分泌増加法の開発ー武道に着目した検討  
防衛大学校 蒔苗 裕平
- ⑲ 異なる接地パターンが足部に作用する力に及ぼす影響ー足部ランニング障害予防のための接地方法の提案ー  
産業技術総合研究所 橋詰 賢
- ⑳ 感覚運動制御からみた投動作の理解  
名古屋大学 山本 裕二
- ㉑ 血圧改善のため概日リズムを用いた運動療法の効果に関する研究  
奈良先端科学技術大学院大学 黄 銘
- ㉒ 高齢者における足関節底屈筋群の瞬発的な力発揮能力向上を目的とした在宅トレーニングが立位姿勢保持能力に及ぼす効果  
芝浦工業大学 赤木 亮太
- ㉓ 心身のストレスに対する競技パフォーマンスの安定性が腸内細菌の構成変化と情緒安定性に関する研究  
東北大学 松生 香里
- ㉔ 低酸素環境下でのスプリントインターバルトレーニングによるトレーニング効果をエピジェネティクスで探る

順天堂大学 吉原 利典

- ㊸ 持久性運動直前の糖質摂取による運動誘発性低血糖（インスリン・ショック）の発生を規定する要因の解明

早稲田大学 谷澤 薫平

- ㊹ 温熱的に安全・快適な空間提供に向けた人体動作を伴う動的環境下における着衣デザインの最適化

岡山県立大学 島崎 康弘

- ㊺ 日常生活におけるコンプレッションウェア着用効果について

一関工業高等専門学校 鈴木 明宏

- ㊻ 体温調整が困難な頸髄損傷者等の障害者に対する車いす運動中の体温制御システムの開発

東京都立産業技術高等専門学校 吉村 拓巳

- ㊼ 車いすバスケットボール選手における不活動と活動骨格筋の異所性脂肪量と皮下組織厚との関連—超音波エコーを用いて下肢（不活動）骨格筋と上肢（活動）骨格筋の異所性脂肪を同定する新たな試み—

帝京平成大学 日置 麻也

### 3. スポーツの振興・発展を目的とする団体の助成（1件 250万円）

国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与するため、「公益財団法人日本体育協会」に助成を行いました。

### 4. わが国のオリンピック事業の推進を目的とする団体の助成（1件 250万円）

オリンピック事業の推進ならびにトップレベル選手の育成強化に寄与するため、「公益財団法人日本オリンピック委員会」に助成を行いました。

### 5. スポーツ科学の国際交流を目的とする団体の助成（1件 100万円）

諸外国とのスポーツ科学における人的・学問的交流を積極的推進するため、「一般社団法人日本体力医学会」に助成を行います。

### 6. 本年度を含む助成金累計額

学術研究助成	997件	5億 940万円
--------	------	----------

団体への寄附金助成	2億 7,100万円
合計	7億 8,040万円

#### 7. 機関誌の発行

平成28年度の事業内容を公表するため、第37回研究成果報告書を中心とする「サントスポーツ科学」Vol.37を本年度6月に発行し広く研究機関関係者に公表致しました。

#### 8. 機関誌のデータベース化

当財団の機関誌「デサントスポーツ科学」は、体育学、健康科学、人間工学、被服科学など幅広い研究を掲載しており、信州大学繊維学部が推進している「産学連携情報提供支援データベース」に登録することにより、機関紙の内容が世界に向けて公開されています。併せて、学术论文の質的向上が図れることが期待できます。

以上

**貸借対照表**  
平成29年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金	12,902,006	11,856,616	1,045,390
流動資産合計	12,902,006	11,856,616	1,045,390
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	2,653,273,503	3,210,247,894	△ 556,974,391
定期預金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	2,683,273,503	3,240,247,894	△ 556,974,391
(2) 特定資産			
助成金準備資金	13,000,000	10,000,000	3,000,000
特定資産合計	13,000,000	10,000,000	3,000,000
固定資産合計	2,696,273,503	3,250,247,894	△ 553,974,391
資産合計	2,709,175,509	3,262,104,510	△ 552,929,001
II 負債の部	0	0	0
1. 流動負債			
未払金	1,047,143	0	1,047,143
流動負債合計	1,047,143	0	1,047,143
負債合計	1,047,143	0	1,047,143
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本金	2,683,273,503	3,240,247,894	△ 556,974,391
指定正味財産合計	2,683,273,503	3,240,247,894	△ 556,974,391
(うち基本財産への充当額)	(2,683,273,503)	(3,240,247,894)	(△556,974,391)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	24,854,863	21,856,616	2,998,247
(うち特定資産への充当額)	(13,000,000)	(10,000,000)	(3,000,000)
正味財産合計	2,708,128,366	3,262,057,531	△ 553,976,144
負債及び正味財産合計	2,709,175,509	3,262,104,510	△ 552,929,001

## 正味財産増減計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	11,627,688	12,842,000	△ 1,214,312
基本財産受取配当金	28,096,631	24,791,145	3,305,486
基本財産運用益計	39,724,319	37,633,145	2,091,174
② 雑収益			
受取利息	218	11,044	△ 10,826
雑収益	19,440	13,770	5,670
雑収益計	19,658	24,814	△ 5,156
経常収益計	39,743,977	37,657,959	2,086,018
(2) 経常費用			
① 事業費			
支払報酬	583,200	583,200	0
会議費	1,527,447	1,435,085	92,362
旅費交通費	1,307,286	1,711,083	△ 403,797
通信運搬費	50,452	58,390	△ 7,938
研究助成費	18,000,840	18,545,000	△ 544,160
支払寄附金	7,000,000	6,000,000	1,000,000
機関誌発行費	5,776,058	5,706,418	69,640
資料収集費	725,000	725,000	0
雑費	1,404	5,296	△ 3,892
事業費計	34,971,687	34,769,472	202,215
② 管理費			
支払報酬	583,200	583,200	0
会議費	80,680	91,006	△ 10,326
旅費交通費	300,000	354,060	△ 54,060
資料収集費	0	0	0
通信運搬費	63,146	79,053	△ 15,907
消耗品費	0	0	0
賃借料	116,640	29,160	87,480
雑費	630,377	482,916	147,461
管理費計	1,774,043	1,619,395	154,648
経常費用計	36,745,730	36,388,867	356,863
当期経常増減額	2,998,247	1,269,092	1,729,155
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	
当期経常外増減額	0	0	
当期一般正味財産増減額	2,998,247	1,269,092	1,729,155
一般正味財産期首残高	21,856,616	20,587,524	1,269,092
一般正味財産期末残高	24,854,863	21,856,616	2,998,247
II 指定正味財産増減の部			
固定資産受贈益			0
投資有価証券受贈益			0
基本財産評価損益	△ 556,974,391	274,355,338	△ 831,329,729
当期指定正味財産増減額	△ 556,974,391	274,355,338	△ 831,329,729
指定正味財産期首残高	3,240,247,894	2,965,892,556	274,355,338
指定正味財産期末残高	2,683,273,503	3,240,247,894	△ 556,974,391
III 正味財産期末残高	2,708,128,366	3,262,104,510	△ 553,976,144

**正味財産増減計算書内訳表**  
平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	9,873,303	1,754,385	11,627,688
基本財産受取配当金	28,096,631	0	28,096,631
基本財産運用益計	37,969,934	1,754,385	39,724,319
②雑収益			
受取利息	0	218	218
雑収益	0	19,440	19,440
雑収益計		19,658	19,658
経常収益計	37,969,934	1,774,043	39,743,977
(2) 経常費用			
①事業費			
支払報酬	583,200		583,200
会議費	1,527,447		1,527,447
旅費交通費	1,307,286		1,307,286
通信運搬費	50,452		50,452
研究助成費	18,000,840		18,000,840
支払寄附金	7,000,000		7,000,000
機関誌発行費	5,776,058		5,776,058
資料収集費	725,000		725,000
雑費	1,404		1,404
事業費計	34,971,687		34,971,687
②管理費			
支払報酬		583,200	583,200
会議費		80,680	80,680
旅費交通費		300,000	300,000
資料収集費			0
通信運搬費		63,146	63,146
消耗品費			0
賃借料		116,640	116,640
雑費		630,377	630,377
管理費計		1,774,043	1,774,043
経常費用計	34,971,687	1,774,043	36,745,730
当期経常増減額	2,998,247	0	2,998,247
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			0
(2) 経常外費用			0
当期経常外増減額			0
当期一般正味財産増減額			2,998,247
一般正味財産期首残高			21,856,616
一般正味財産期末残高			24,854,863
II 指定正味財産増減の部			
固定資産受贈益			
投資有価証券受贈益			
基本財産評価損			△ 556,974,391
当期指定正味財産増減額			△ 556,974,391
指定正味財産期首残高			3,240,247,894
指定正味財産期末残高			2,683,273,503
III 正味財産期末残高			2,708,128,366

注) 共通費用は公益目的事業会計と法人会計に配賦している。





## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

投資有価証券については、総平均法による原価法によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	30,000,000		0	30,000,000
投資有価証券	3,210,247,894	170,000,000	726,974,391	2,653,273,503
小計	3,240,247,894	170,000,000	726,974,391	2,683,273,503
特定資産				
助成金準備資金	10,000,000	3,000,000	0	13,000,000
小計	10,000,000	3,000,000	0	13,000,000
合計	3,250,247,894	173,000,000	726,974,391	2,696,273,503

(注) 1. 投資有価証券の減少額はデサント株式の期末時価評価による評価差額であります。

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充 当額)	(うち一般正味 財産からの充 当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	30,000,000	30,000,000	0	0
投資有価証券	2,653,273,503	2,653,273,503	0	0
小計	2,683,273,503	2,683,273,503	0	0
特定資産				
助成金準備資金	13,000,000	0	13,000,000	0
小計	13,000,000	0	13,000,000	0
合計	2,696,273,503	2,683,273,503	13,000,000	0

### 4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、評価額及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	帳簿価額	評価額	評価損益
投資有価証券			
ロイズバンク (ユーロ円債)	100,000,000	103,650,000	3,650,000
シルフリミテッド (ユーロ円債)	100,000,000	106,440,000	6,440,000
ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス (ユーロ債)	100,000,000	103,610,000	3,610,000
みずほ証券 S C B クレジットリンク債	100,000,000	100,000,000	0
3回ソフトバンク G 利払繰延期限前償還劣後債	70,000,000	69,650,000	△ 350,000
合計	470,000,000	483,350,000	13,350,000

# 監 査 報 告 書

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団  
理事長 石 本 和 之 殿

平成 29年 5月 8日

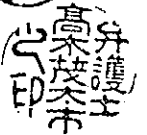
公益財団法人 石本記念

デサントスポーツ科学振興財団

監 事 篠原 祥哲



監 事 高木 茂太市



私たちは、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの事業年度における理事の業務執行及び会計の監査を行い、その方法及び結果について、次のとおり報告する。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会及びその他の会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産状況の調査を行った。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討した。

さらに、会計帳簿並びに関係書類閲覧など必要と思われる調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録の妥当性を検討した。

## 2 監査意見

### (1) 事業報告書等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められなかった。

### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。